



川東小だより

第3号

令和5年6月15日

新発田市立

川東小学校

創立10周年記念運動会を終えて

～ プロセスを大切に～

校長 岡崎 功一

青空をバックに、赤、オレンジ、黄色、緑、青、ピンクと色とりどりの風船が舞い上げていく景色を見ながら、子どもたちは、10周年を迎えたことを実感し、これからもきらきら輝く川東小学校にしていくことの決意を新たにできたのではないかと思います。

今年度は、久しぶりに参加制限を設定しない運動会としました。当日は、多くの来賓、ご家族の方からご参観いただきありがとうございました。おかげをもちまして創立10周年記念運動会を成功裏に終えることができました。

先月の学校だよりでも紹介させていただいたように、運動会は、子どもたちにとって大きく成長する機会であると思います。

6月の全校朝会では、その成長した姿を、運動会の写真を紹介しながら子どもたちと次のような振り返りをしました。

赤白一緒に歌った応援歌の3番は、迫力があったこと。団体競技は、どの学年もなかなか勝負が決まらず息をのむ接戦になったこと。リレーでは、バトンをしっかりつないで最後まで勝負をあきらめなかったこと。放送や感想発表の係のがんばりも運動会を支えてくれたこと。そして、何より赤組も白組も心を一つにして応援や競技に取り組んだこと。赤も白も相手を尊重する大切にする気持ちをもって取り組んだこと。このことが、勝ち負け以上にとてもすばらしかったという話をしました。そして「感動をありがとうございました」という言葉で結びました。



創立10周年バルーンセレモニー

このように感動があった運動会になったことは、本番だけを頑張ったのではなく、一人一人が運動会に向けての準備や練習など、当日に至るまでのプロセスを大切にしてきたからだと言えます。すべてが問題なく進めることができたわけではありません。例えば、応援団リーダーに立候補するのにも「自分に務まるのだろうか。無理なのではないか。」という葛藤があったり、なればなれたで、「なかなか思い通りにみんなをまとめられない。」「応援のしかたが今一つで、なんかいい方法はないかな。」とか悩んだりという場面が必ずあったはずです。そんなときに自分なりに答えを導き出し取り組む経験が貴重で、自分の成長につながってくるはずです。役割や立場こそ一人一人違いますが、運動会に向けて、その子なりのめあて、課題に向けて一生懸命に取り組んできました。その姿勢が感動を生んだ創立10周年記念運動会になったのではないかと思います。保護者の皆様は、如何お感じになったでしょうか。

運動会は、多くの子どもたちにとって自己肯定感をもつことができた行事になりました。1学期も半ばを過ぎましたが、今後も各学年ともいろいろな活動が目白押しです。今後とも、子どもたちにとって自己肯定感がもてる教育活動を進めていきたいと思っています。